

2017年(平成29年)5月21日(日曜日)

総合

山

形

新

風

インフラ整備に一層の意気込み

記者席ノート

◇…大沼瑞穂参院議員(県選挙区)の支援者で組織する「大沼みずほと地域を語る会」(岡崎弥平治会長)の総会が20日、山形市のパレスグランデールで開かれた。大沼氏は「県内に必要な国の予算を持つてくることは最低限の仕事」と語り、本県のインフラ整備などに向け一層、力を入れる意気込みを語った。写真。

大沼氏は、山形新幹線の福島―米沢間での携帯電話不感区間解消に向けて尽力したことを挙げ、「政治家としては大切な人事の電話が掛かってきても、携帯電話が通じないだけで(重要なポストに)就けないこともある」と述べ、商談でもビジネスチャンスを逃すことがあり得ると、成果を強調。また、東北中央自動車道の不連続区間の早期開通や、県産農産品などの地理的表示(GI)登録推進などに取り組む重要性を指摘し、「国が力を入れてい事業を活用し、山形県にとってメリットがあることをしなければならぬ」と力を込めた。



約100人が集まり、自民党の宏池会とともに活動する松山政司参院国対委員長(福岡県選挙区)と、佐藤孝弘山形市長が来賓として出席した。